

2 1. 発育調査に基づく子牛発育改善への取り組み

西部振興局 生産流通部 畜産班

○阿部菜奈子、池田正一

【はじめに】市場に出荷される子牛の価格は、出荷体重や日齢増体重、系統等に大きく左右され、それが農家間の価格差にもつながっている。市場価格を高めるためには、飼養管理の改善を図り、子牛の発育を向上させることが重要であるが、客観的な発育データに基づく飼養管理の改善指導については、あまりなされてこなかった。

そこで、子牛の育成過程における発育データと市場価格との関連を客観的に把握し出荷成績の向上につなげるため、管内後継者グループ飼養牛を対象に、子牛出荷時までの体高や胸囲、体重等を定期的に測定・分析し、飼養管理技術の検討を行った。

【取り組み経過】

(1) 子牛市場での発育調査

管内の後継者グループを対象に、平成17年から市場出荷時に体高、胸囲等の測定調査を行っており、平成22年の口蹄疫防疫による中断を経て、平成23年より希望農家のみで再開した。更に平成24年度3月市場からは、後継者グループと協議し、会員等計12戸の出荷子牛を対象に、体高、胸囲、腹囲の測定を毎市場行っている。

(2) 育成過程の定期的な発育調査

市場で発育調査を行っている農家のうち3戸は、出荷時まで、体高、胸囲、腹囲の測定を毎月行い、発育の経過を数字で追っている。また、発育調査と平行して飼料分析や飼料計算を行い、育成期の飼養管理指導を行っている。

(3) 情報の提供

振興局では発育調査結果をまとめ、後継者グループ会員間の出荷成績を比較した資料を用いて定期的に研修会を開催している。また、会員内において発育が良好な農家については、戸別に飼料給与量や管理方法の現地確認調査を行い、その要因を実際に目で見て確認し、各会員の農場成績の改善につなげるための現地研修会を実施した。

【結果及び今後の取り組み】定期的に発育状況の調査・分析を行うことにより、子牛の発育レベルを客観的に確認することで農家に対し目標とする発育レベルに向けた改善方法を提示し、飼養方法の改善に繋げることが出来た。さらに、成績の良好な農家の飼養管理技術を実際に見ることにより、自らの飼養管理方法を子牛の成育ステージに応じて改善する農家が見られるようになった。

今後は、管内生産者の子牛出荷成績の向上に向け発育調査と定期的な研修会を継続して行うとともに、育成過程の発育調査対象農家数を増やしていく。併せて、分析データに基づいた飼料計算を行い子牛の成育ステージに応じた飼料内容及び給与量を指導したい。さらに、子牛の発育調査結果や系統と枝肉成績との関連についても分析を行い、その結果を生産農家にフィードバックし、子牛価格向上を図る必要がある。